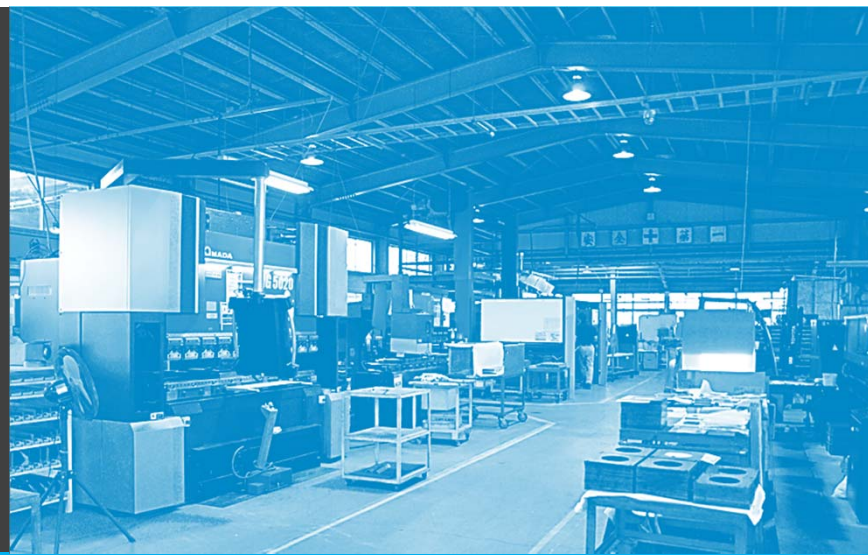


2016 Environment Report



21世紀、社会から認められる企業へ

当社は、社会の責任ある一員として、地球環境保全を経営の最重点課題の一つに位置づけ、事業活動の全領域で環境に配慮した行動に努め、住み良い環境の実現とその環境の次世代・次々世代への継承に貢献します。

株式会社 林製作所 環境レポート2016
平成27年7月～平成28年6月



Message ～メッセージ～

当社は2007年12月、環境マネジメントシステム「エコアクション21」を認証登録いたしました。深刻化する異常気象、地球環境問題を、当社事業の根幹に関わる重要な問題であると位置づけ自主的な環境保全の取組みを推進します。今日、企業の社会的責任（CSR）や法令順守（コンプライアンス）の重要性が叫ばれ、環境への取組状況からも企業を評価する動きが活発化している中で、当社はこの取組みは21世紀の企業経営に必要不可欠なものであると考えます。21世紀、社会に認められる企業あり、社会から必要とされる企業であるよう、より良い環境の創造に向け積極的な取組みを進めてまいります。

2016年11月30日
株式会社 林製作所

会社概要

社名 株式会社 林製作所
代表者 代表取締役 林 進

創業 昭和2年11月23日
資本金 30,000千円
売上規模 612,000千円（27年度実績）
従業員数 48名

環境保全関係の責任者及び担当者

代表責任者 代表取締役 林 進
環境管理責任者 専務取締役 林 司
E A 21 事務局 林 司

事業内容
精密板金加工並びに、金属プレス加工を主体とする製品・部品の製作及び組立

主要加工品

食品・産業機械用冷凍機板金部品
電機・電子機器シャーシ、パネル、機構部品
発電所向け等重電機板金部品
宇宙開発関連の切削を含む板金部品
家庭用厨房機器用絞り加工プレス部品
コンプレッサー用他深絞りタンク類
医療機器・防災機器板金加工及び加工組立



認証・登録の対象活動範囲 本社および行力工場
(精密板金加工・金属プレス加工・溶接・組立)

認証・登録事業者 株式会社 林製作所

〒370-0086
群馬県高崎市沖町368番地の1
電話 027-343-1211
FAX 027-343-1213
敷地5,547㎡ 建築面積1,969㎡



関連事業所 行力工場

〒370-0088
群馬県高崎市行力町270番地の13
電話 027-343-4444
FAX 027-344-4411
敷地1,555㎡ 建築面積756.8㎡



環境方針

21世紀、社会から認められる企業へ

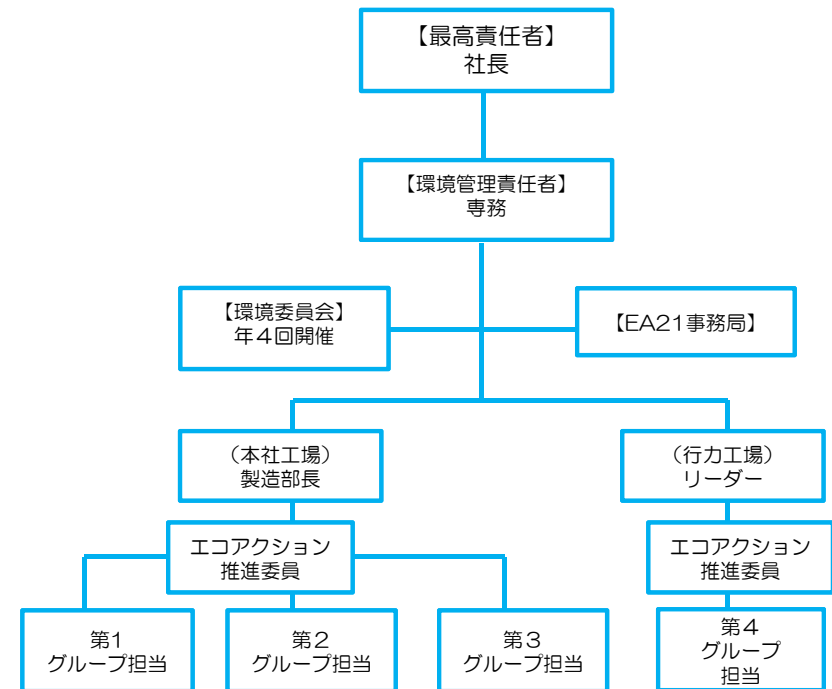
当社は、社会の責任ある一員として、地球環境保全を経営の最重点課題の一つに位置づけ、事業活動の全領域で、環境に配慮した行動に努め、住み良い環境の実現とその環境の次世代・次々世代への継承に貢献します。

行動指針

- 電力使用量の削減、温室効果ガスの排出削減、投入資源の削減、廃棄物量削減、排水量削減を、目標値をもって取り組む。
- 定期的な保守点検により、設備（機械や車両等）の最適化をはかり無駄な電力やエネルギーの消費を抑える。
- 環境保全に関する法規則を遵守する。
- 事業活動において使用する資材・設備・販売製品等は、環境に考慮したグリーン調達を推進する。
- ゴミ・廃棄物の分別を徹底し、再利用、再資源化に努め、資源循環型社会の形成を推進する。
- 化学物質の使用削減に取り組む。
- 全社員にこの環境方針を周知させると共に、環境教育を実施し、知識・認識の向上に努め、また、取引先へも環境方針を周知し社内外において環境保全活動への認識の向上に努める。

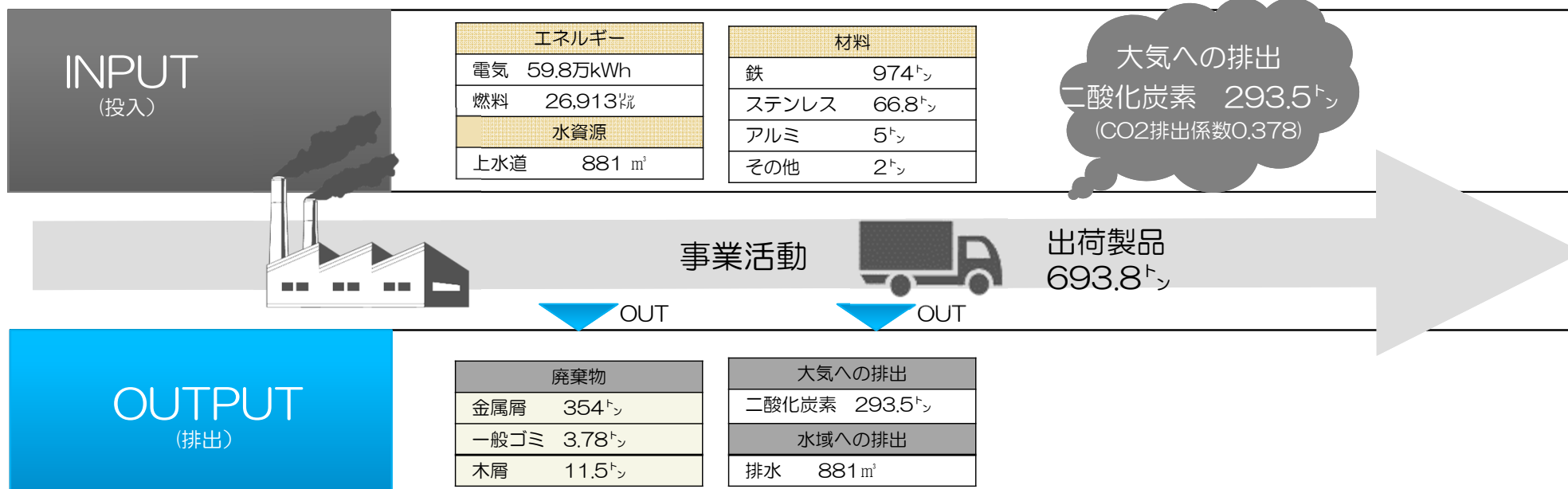
2016年7月1日
株式会社 林製作所
代表取締役 林 進

エコアクション21推進組織図



マテリアルバランス

弊社の2015年7月から2016年6月まで1年間のマテリアルバランスは以下の通りです。



環境関連法令

当社事業活動に当たって遵守しなければならない環境関連法規、条例及びその他規制、全13項目を取りまとめ、全項目遵法されていることを確認いたしました。またその他提訴等もありません。

法律名	該当施設	該当要求事項	遵守
浄化槽法	浄化槽	設置・変更届出	○
騒音規制法	特定施設	設置・変更届出	○
振動規制法	特定施設	設置・変更届出	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物保管場所	看板掲示・マニフェスト管理	○
労働安全衛生法	事業活動全般	資格取得等	○
消防法	灯油置き場	届出	○
埼玉県生活環境保全条例及び施行規則(自動車対策)	トラック	適合車使用	○
都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	トラック	適合車使用	○
高崎市等広域市町村圏振興整備組合火災予防条例	灯油置き場	—	○
高崎市公害防止条例	特定施設	届出	○
特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	公害防止管理者	届出	○
フロン排出抑制法	エアコン	—	○

平成27年度 環境目標の達成状況

項目	27年度の目標	27年度の結果	評価	コメント
① 電力消費量を削減し売上高100万円当り二酸化炭素排出量を削減する。	売上高100万円当り二酸化炭素排出量を370kg以下とする	369kg	○	369kg 目標は達成された。しかし、受注が多く納期に追われるような状況が半年続き、外注加工が増えたため、結果的に分母が増え原単位で数値が下がる傾向にあった。社内の生産の効率化を進め、さらなる低減に努めたい
② 走行距離あたりの燃費を向上させ、環境負荷を低減させる。	平成26年度対比で1ポイントアップ。	-1.76ポイント	×	-1.76ポイント 3.5tトラックの運用方法が長距離納品主体から近距離、中距離の納品が増え燃費が悪化した事が原因の一つであると考えられる。
③ 一般焼却ごみの排出量を削減する	紙ゴミ・可燃ごみ 2600kg以下とする	2,227kgkg	○	2227kg 紙の裏紙利用や梱包資材としてのリユースが進んだことにより焼却ごみとしての廃棄が減った事が要因と考えられる。
④ 排水の削減	750㎡以下	881㎡	△	881㎡ 昨年とほぼ同じ使用量であった。数年間の結果を検証すると、現状の生産体制、水道設備などを使用した場合の目標値の設定に無理があることも考えれ、見直しを検討する。
⑤ OAペーパーの削減	購入量を300kg以下	603.4kg	×	603.4kg 大幅に使用量が増えてしまった。決算期に纏め購入したことも必要以上に数値を上げてしまった原因であると考え
⑥ 自社の生産品の含有化学物質を把握し、必要な情報を顧客へ公開する	全社的に知識を深める	○	○	得意先からの含有化学物質調査に対し、担当者を置き、敏速に対応できている。調査委依頼にはすべて回答済み。年間を通して含有化学物質に関係する問題等はなかった。
⑦ グリーン購入	対象品目の継続購入	○	○	対象品のグリーン購入継続。
⑧ 新エネルギー分野からの受注拡大	年間1000万以上の受注	○	○	彩の国ビジネスアリーナ2015/群馬県ものづくり技術展に出展/受注実績としてはメガソーラー向けパワコン関連部品、家庭用スマートメータ部品などがある。

工場別目標達成状況

電気使用量 27年7月～28年6月		目標値	結果
本社	電力使用 目標	530,000 (kWh)	530,793 (kWh)
行力	電力使用 目標	58,000 (kWh)	67,917 (kWh)
	合計	588,000 (kWh)	598,710 (kWh)
	合計排出量	222,264 (kg)	226,312 (kg)
	売上目標	6億 (円)	6.1億 (円)
	売上100万あたりCO2 排出量	370 (kg)	369 (kg)
水使用量 27年7月～28年6月		目標値	結果
	行力水使用量	180 (㎡)	182 (㎡)
	本社水使用量	570 (㎡)	699 (㎡)
	合計使用量	750 (㎡)	881 (㎡)

平成28年度 環境目標と活動計画

項目	3年後の目標	今年28年度の目標	取組み
① 電力消費量を削減し売上高100万円当り二酸化炭素排出量を削減する。	売上高100万円当り二酸化炭素排出量を360kg以下とする	売上高100万円当り二酸化炭素排出量を370kg以下とする	照明、設備の必要時以外の電源OFF・設備の日常点検・特にエアリークの徹底対策
② 走行距離あたりの燃費を向上させ、環境負荷を低減させる。	平成27年度対比で5ポイントアップ。	平成27年度対比で1ポイントアップ。	配送の効率化を中心に消費燃料の削減に取り組む。
③ 一般焼却ごみの排出量を削減する	紙ゴミ・可燃ごみ 2,500kg以下とする	紙ゴミ・可燃ごみ 2,600kg以下とする	梱包資材の再利用・コピー紙の裏紙利用
④ 排水の削減	750㎡以下	800㎡以下	機械の冷却方法などについて、方法を検討とする。
⑤ OAペーパーの削減	購入量を250kg以下	購入量を300kg以下	紙の裏面利用・図面のデータ管理化
⑥ 自社の生製品の含有化学物質を把握し、必要な情報を顧客へ公開する	含有化学物質マネジメントをシステム化	全社的に知識を深める	朝礼、掲示物を通じ全社員の知識を深める。
⑦ グリーン購入	対象品目すべてのグリーン購入	対象品目の継続購入	対象品を継続購入するとともに、ファイル類はリサイクルする。
⑧ 新エネルギー分野からの受注拡大	年間1,500万以上の受注	年間1,000万以上の受注	展示会でのPR、既存顧客への営業、ホームページでのPRを積極的に行う

工場別目標達成状況

電気使用量 28年7月～29年6月		目標値
本社 電力使用 目標		530,000 (kWh)
行力 電力使用 目標		58,000 (kWh)
合計		588,000 (kWh)
合計排出量		222,264 (kg)
売上目標		6億 (円)
売上100万あたりCO2 排出量		370 (kg)
水使用量 28年7月～29年6月		
行力水使用量		180 (㎡)
本社水使用量		620 (㎡)
合計使用量		800 (㎡)

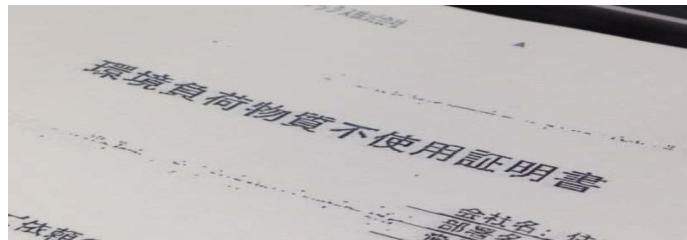
環境活動

■ 5S活動



社内全体で5S活動を行っています。
 不用品を処分し整理・整頓をおこなう事で無駄な資材の購入を減らすと共に作業の効率化による省エネ・環境負荷低減活動を行っています。
 7月には社内の5S発表会を「5S選手権」として実施しました。

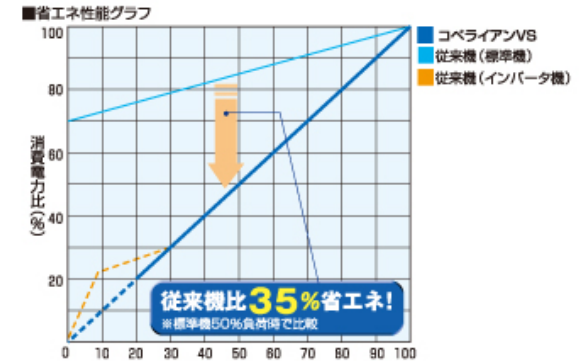
製品含有化学物質規制への対応



当社は、2006年7月1日に欧州で施行された、電子機器への特定有害物質の含有を禁止する有害物質規制「RoHS」で規制をされる6物質を始め、顧客より指定を受けた物質の閾値レベルの遵守及、不使用を進めており、担当者を設け、客先からの調査依頼に敏速に回答を行っています。また、RoHS2やSVHC169などの最新の要求基準へ対応するよう、随時調査を行っています。弊社工程内では改正RoHS指令10物質の使用を禁止しています。

調査範囲【 購入材料/購入部品/使用化学物質/表面处理（外注工程）】

■ 省エネ機器導入



旧式スクリーコンプレッサーを最新のインバーター式省エネタイプに入れ替えました。NCT加工機を夜間自動運転させ、加工が終わった場合はNCT加工機の自動電源断と連動してコンプレッサーも電源が切れるように接続をしています。

改正RoHS指令

禁止物質	規制濃度(閾値)	備考
鉛	0.1wt%(1,000ppm)	
水銀	0.1wt%(1,000ppm)	
六価クロム	0.1wt%(1,000ppm)	
PBB(ポリブロモビフェニル)	0.1wt%(1,000ppm)	
PBDE(ポリブロモジフェニルエーテル)	0.1wt%(1,000ppm)	
カドミウム	0.01wt%(100ppm)	
DEHP(フタル酸ジ-2-エチルヘキシル)	0.1wt%(1,000ppm)	新規追加物質
BBP(フタル酸ブチルベンジル)	0.1wt%(1,000ppm)	新規追加物質
DBP(フタル酸ジ-n-ブチル)	0.1wt%(1,000ppm)	新規追加物質
DIBP(フタル酸ジイソブチル)	0.1wt%(1,000ppm)	新規追加物質

環境データ

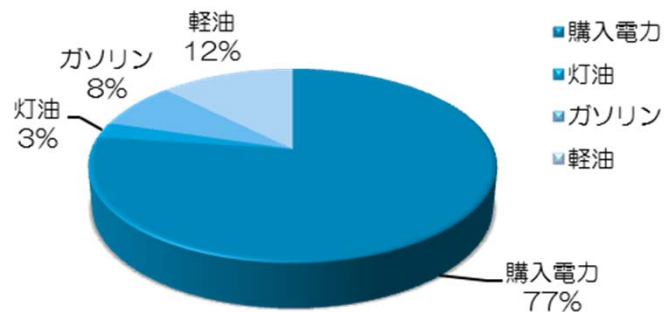
■ 電力使用量 CO2排出量比較

(係数 0.378 <東京電力>)

年度	電力使用量 (kWh)	CO2排出量 (kg)	原単位排出量 (kg)
22年度排出量	637,471	240,964	405
23年度排出量	539,070	203,768	364
24年度排出量	545,017	206,016	351
25年度排出量	572,793	216,515	369
26年度排出量	583,133	220,424	381
27年度排出量	598,710	226,312	369



■ 温室効果ガス排出割合



項目	排出量
電力	226t
灯油	8t
ガソリン	23t
軽油	36t
総排出量	293t

■ 燃費比較

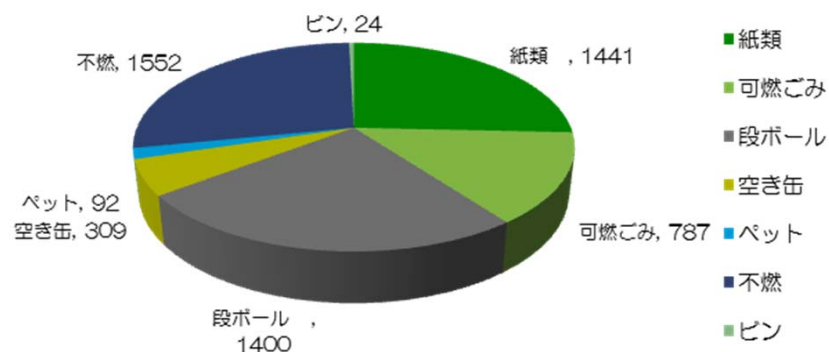
	走行距離Km	燃料(ℓ)	燃費(km/ℓ)	向上率	
4 tトラック	29,264	4,452	6.6	-7.4	DOWN ↓
3 tトラック	18,239	3,374	5.4	-15.9	DOWN ↓
3 tトラック	32,257	4,843	6.7	1.3	UP ↑
2 tトラック	13,000	1,312	9.9	10.1	UP ↑
軽トラ	13,236	853	15.5	-10.6	DOWN ↓
バン	14,258	1,203	11.9	3.7	UP ↑
フォーク2.5	889	7,820	0.32h/ℓ	6.5	UP ↑
フォーク2.0	821				
フォーク1.5	809				
			全体改善率	-1.76	DOWN ↓

環境データ

■水道使用量比較

年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
使用量	784m ³	911m ³	929m ³	880m ³	881m ³

■一般廃棄物 分類 (kg)



■廃棄物排出量比較

年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
金属屑	312t	301t	277t	323t	354t
一般ごみ	5.6t	5.2t	4.1t	4.2t	3.8t
木くず	16t	16t	15t	15t	11.5t

内部監査結果報告

内部監査により弊社の環境マネジメントシステムにおいて不適合は確認されなかった。書類、記録も適正に作成され保管されていることが確認された。
 全社員に配布した方針ブックに環境方針も記載されているのは、良い取組だと思う。5S活動も停滞しないように勧めてほしいとの、報告がありました。

マネジメントレビュー結果

環境に配慮した経営を実施しても画期的な数字の変化は求めにくい。しかし、活動の継続と省エネ機の導入等、努力していく。
 従来は産業廃棄物として廃棄していた材料納入時の木枠（スキッド）を材料メーカーが引取り再使用することとなった。産業廃棄物の削減につながるのではないかと。工場内水銀灯のLED化について、あまりLED照明の価格が下がってこないが、費用対効果をみながら今後LEDへ更新を検討する必要があるとコメントがありました。